宝満寺跡

【所　在　地】志布志市志布志町帖 6530　他
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 42 年３月 31 日

志布志の町並みの東端，前川の左岸に位置し，その中心部約 5,000・に宝満寺跡がある。

宝満寺は，奈良時代に聖武天皇が鎮護国家のため各地に建てた勅願所の一つといわれている。その後 14 世紀初めに再建され，「律宗秘山密教院宝満寺」と称した。かつては，寺領 49 石，寺の敷地も７町 25 間あったといわれ，坊津一乗院と並び称された古刹である。

廃仏毀釈により建物，宝物，什器類は焼失したりしているが，庭園，歴代住職の墓，仁王像，石橋等が残っている。また，寺跡には，観音堂が再建されている。

〈参考〉

●宝満寺庭園　背後に小高い山の自然林と大岩窟，その前に連続する４つの池を配した幽邃の気をただよわせる庭園である。この溝によって連結された池は，浄界と俗界を分かつ濠から変化したもので，古代中国にみられる「泮池」の形式を踏むものである。同寺の庭園は，この泮池の様式に琉球の作庭技法を加味したもので，特色ある中世庭園といえる。